

各務原リハビリテーション病院(仮称)

◆回復期リハビリテーション病棟

◆人工透析センター



目次 - CONTENTS -

- 理事長あいさつ・・・・・・・・・・P2
- 施設長あいさつ・・・・・・・・・・P3
- 新任医師のご紹介・・・・・・・・P4
- 新病院情報・・・・・・・・・・P5
- 新しいサービスのお知らせ・・・・P6
- 糖尿病予防教室のお知らせ・・・・P6
- 法人職員活動報告・・・・・・・・P7
- 法人施設のご紹介・・・・・・・・P8

■ 誠道会の理念

地域に根ざした医療と介護を誠の心で実践します

■ 基本方針

- 地域の皆様との交流に努めます
- 地域の自立に協力します
- 24時間の安心・安全を目指します
- 医療・介護・福祉の連携に努めます
- 医療・介護の充実のため教育・研修・研究を実践します
- 私たちは地域のため健全経営の維持に努力します
- 私たちは共に成長します
- 私たちはお互いを尊重します
- 私たちはお互いに成長する職場を育みます
- 私たちは職場上知り得た情報を業務外に利用することはありません

■ 誠道会のシンボルマーク

地域の方々が高齢化するに従い医療のみならず介護も重要な問題となってきました。医療は治癒として英語でキュア (cure)、介護は英語でケア (care)。この2つの単語の頭文字の中に、地域の人がわいわいと集う意味を込めて千鳥をあしらいました。

本誌名もこの2つの単語の頭文字を引用して「C&C」としました。



理事長あいさつ



医療法人社団誠道会 理事長

いその みちお
磯野 倫夫

医療法人誠道会は、大正時代に前々院長である磯野誠道が各務原市鶴沼羽場町に診療所を開設した事で始まりました。その後、鶴沼山崎町に移転して‘日本ライン養生院’を開設。太平洋戦争後は前院長の磯野成光が‘いその医院’として開業しました。平成6年に私が院長となり、平成10年に医療法人誠道会と組織を変え、現在に至っております。

外来や在宅で診させていただく方々が高齢化・認知化するに伴い、グループホーム、デイサービスと開設し、平成19年6月には有床診療所‘新鶴沼ケアクリニック’・老人保健施設‘菜の花’を現在の場所に開設しました。この様に、当法人は大正時代より鶴沼を中心として、微力ながら地域医療に貢献してきたと思っております。これもひとえに地域の皆様の温かいご支援と、医師会や行政の方々のご協力の賜物と感謝しております。

当法人の大きな使命の一つは、「地域の方々が、住み慣れた地域で、全人的な生活が営める、地域リハビリテーション」と考えております。各務原市東部地域は昭和40年頃より開発が始まり、多くの団塊の世代の方々が転入されました。平成の時代となり、地域での医療・介護が大きな問題となっております。また、飽食の時代をむかえ糖尿病の罹患率も大きな社会問題となっております。さらに、各務原市の医療の特殊性といたしまして、入院可能な病床が非常に少ない事があります。

以上をふまえ、当法人は平成23年末に糖尿病の治療と合併症の回復期を対象とした、脳血管障害・循環器障害・腎機能障害などに対応した、地域リハビリテーションを担う各務原リハビリテーション病院（仮称）を開設する事にいたしました。

鶴沼を中心とした各務原市東部は、時代の流れとともに大きく変貌してまいりました。地域の医療法人として、今後も地域の変化に対応し、地域の皆様に健康と安心を可能な限り提供すべく努力する事を誓います。

施設長あいさつ



介護老人保健施設菜の花 施設長

いぐち つねお
井口 恒男

ようやく念願の「C&C」、「誠道会だより」が発刊することになり、ありがたく思います。まずは老健菜の花の担当者の1人として、発足からの状況をながめたいと思います。私にとって老健は平成14年度から5年間経験した前任の老健「リバーサイドピラ」に次いで2つめの「菜の花」ですが、前任職場と違う点は、①自宅から至近であること、②前任では、老健単独施設であり、利用者に異常が見られた場合の多くは特約の病院へ移送することになっていること、さらに日常の臨床管理はベテランの内科医の先生が担当されていたこと、③菜の花では、臨床面・管理面は先ずはすべて担当する、④菜の花は新鶴沼ケアクリニックとペアになっており、老健もCTなどX線検査ができること、医療の必要な利用者は、同じ建屋の2階の病床に転院することが可能なこと、などです。

平成19年6月にオープンして23年5月末で丸4年間経過しましたが、この間、院長さんはじめ若い先生方やスタッフの皆さん方の協力を得て何とかやってくることができ、うれしく思っています。また、当職場では最高齢の私が、孫に近い人たちをはじめ若くはつらつとした皆さんと働ける環境は有り難く、また、健康保持の一因ともなっていると思います。

さて、この4年間の総括を利用者のみなさんの状況から見てみましょう。オープンしてスタッフの充足とともに4、5か月で99床のベッドが満床に近くなりました。当初、利用者の中には病状不安定な人もよくみられ、病院へ転送の必要な場合もみられました。この状況は、胃ろう造設者が利用者の2割を占めているように最近の利用者の重度化で、状況は最近も同様と感じています。

現在の利用者の状況を5月31日で見ますと、総数96人、男性26人、女性70人で平均年齢は男性80.8歳、女性86.3歳、90歳以上が27人で女性が24人です。男女とも平均寿命をやや上回っています。

この4年間に利用された人たちの内、判明している死亡者の方は100人近くみられます。その中で40人の方は老健菜の花を臨終の場とされた方です。幸い私は鶴沼地区に居住しており、40人の方の最後に立ち合わせて頂きました。至近の老健に勤務し、このことは覚悟の上であったし、時に夜半のこともありましたが、意義深く感じています。老健の在り方の私見については他の機会に記述したいと思います。

平成 23 年 7 月より、当法人に 2 名の医師が赴任することになりましたので紹介させていただきます。

新任リハビリテーション医師の紹介



整形外科 鈴木 浩之

【専門】
 日本整形外科学会認定専門医
 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
 日本整形外科学会認定スポーツ医
 日本整形外科学会認定リウマチ医
 義肢装具等適合判定医

【紹介】
 川崎医科大学卒
 名古屋市立大学病院 整形外科
 小牧市民病院 整形外科
 スイスパーゼル大学 フェローシップ
 小牧市民病院 整形外科部長
 小牧市民病院 リハビリテーション科部長



初めまして、鈴木浩之（すずき ひろゆき）といたします。このたび 7 月から誠道会に入職しました、整形外科・リハビリテーション科の医師です。

整形外科とは運動器の疾患を扱う診療科です。身体の芯になる骨・関節などの骨格系とそれを取り囲む筋肉やそれを支配する神経系からなる「運動器」の機能的改善を重要視して治療する外科で、背骨と骨盤というからだの土台骨と、四肢を主な治療対象にしています。

最近では運動器の障害による要介護の状態や要介護リスクの高い状態を表す新しい言葉として「ロコモティブシンドローム」（運動器症候群）という言い方が出てきました。また、特に高齢者で、歩行・移動能力の低下のために転倒しやすい、あるいは閉じこもりとなり、日常生活での障害を伴う疾患を運動器不安定症と呼び、重症化を防ぐために運動器リハビリテーションなどの介入が大切だと言われています。

運動器障害は徐々に進行することから、自分で気づくことが大切で、骨・関節・筋肉・靭帯などの運動器の健康に普段から注意して生活することが大事です。また、当院では外来での通院リハビリも可能ですので、何か心配なことがありましたら相談していただけますよう、よろしくお願いいたします。

新任腎臓・リウマチ内科医師の紹介



腎臓内科 渡邊 一司

【専門】
 腎臓専門医・内科専門医
 【紹介】
 愛知医科大学医学部卒
 愛知医科大学病院
 腎臓・リウマチ膠原病内科



みなさん、こんにちは。愛知医科大学腎臓・リウマチ膠原病内科からきました渡邊 一司（わたなべ ひとし）です。専門分野は腎臓・リウマチ膠原病疾患です。

腎臓疾患は糖尿病・高血圧・高脂血症などメタボリックシンドロームなどに代表される疾患の標的臓器として障害を受けます。障害としては血尿・蛋白尿など検尿異常を認め、その後腎機能低下など血液検査異常を認めます。腎疾患は自覚症状がわかりにくいことがあり、病態が進行している状態で検診にて異常を指摘されることもあります。

リウマチ膠原病では全身性エリテマトーデス・強皮症・皮膚筋炎/多発筋炎・リウマチ・全身性血管炎などが有名な疾患で、自己免疫の活動性が高い事による標的臓器障害を疾患ごとに認めます。腎障害の悪化を認めると状態によっては腎不全となり維持透析になることもあります。

腎臓・リウマチ膠原病を中心にした腎臓・透析治療を行っていきたいと思いますので今後とも宜しくお願いします。

■新病院情報■

平成23年末頃に新しい病院を開設します

各務原リハビリテーション病院（仮称）・人工透析センターの概要

- ◆入院病床数 119床（既存19床+増床100床）
- ◆透析センター 30床（開設時は10床から）
- ◆構造 鉄骨造、地上3階
- ◆建築工事 平成23年2月17日着工 ～ 平成23年11月頃竣工

リハビリテーション病院・人工透析センター開設の背景

2000年4月の介護保険制度の施行に同期して新設されたのが回復期リハビリテーション（以下リハビリ）病棟で、本年4月で11年が経過しました。新設当初の整備目標は10万人あたり50床であり、目標が達成されている地域もあります。本年7月現在、全国平均10万人あたり40床後半であり目標まであとすこしという状況ですが、岐阜県は約30床と病床数が不足している状況にあります。さらに岐阜県内でも各務原市（人口15万人）には回復期リハ病棟がなく、岐阜市や可児市、県外の犬山市や江南市など各務原市外への入院を余儀なくされる現状です。

また透析に対応した病床においても同様のことが起こっております。そして、高齢化対策としての介護保険関係施策においても、透析患者については、市内入所施設が対応できず、上記に則って「自宅介護か市外への転院か」という選択肢しかなく、在宅サービスにおいても、通所リハビリ事業所での受入れも制限を受けるなど、極端にサービスを限定されている状況です。

そこで当院に回復期リハビリ病棟の開設と併せ、透析センターを開設することで各務原地区、またはその周辺の患者様が遠くの病院へ転院することなく地元で安心して入院しリハビリ・透析を受けることができることで地域に貢献できると考え、開設を目指すこととなりました。

回復期リハビリテーション病棟とは・・・

脳血管疾患や大腿骨骨折など発症から急性期を経た後の『回復期』に行っていくリハビリテーションを専門で行う病棟です。

回復期リハビリテーション病棟では、患者様に対して、できるだけ早期から重点的にリハビリテーション治療を行います。日常生活動作能力の向上による「寝たきり予防」と「在宅復帰」を第一の目的として、患者様やご家族様を中心に医師・看護師・ケアスタッフ・医療ソーシャルワーカー（MSW）・理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・言語聴覚士（ST）・栄養士など多職種がチームとして生活リハビリの実施を支援しています。

センターの開設に向けて今後の課題と取り組み

- ◆地域の急性期病院との連携の強化
- ◆外来者会等を通じた患者様とのコミュニケーション
- ◆透析患者様へのリハビリテーション、透析中の運動療法への取り組み
- ◆近隣の介護保険施設等の入所者様に対する透析実施への取り組み

建築状況

平成23年2月15日に地鎮祭が行われ、工事も順調に進んでおります。



建設工事区画

新しいサービスのお知らせ



言語聴覚士
わたなべ いくみ
渡邊 育美

歯科衛生士
よしだ きよこ
吉田 紀代子

平成 23 年 7 月より老人保健施設『菜の花』に歯科衛生士が入職しました。

当施設では、言語聴覚士をはじめ様々なスタッフで NST(栄養・サポートチーム)として活動しており、現在は“口腔ケア”の見直しに取り組んでいます。

“口腔ケア”は口の中をきれいにすることはもちろん、食事や呼吸、話すことにも重要です。また口腔ケアは発熱や肺炎の予防、転倒や認知機能の低下など・・・様々な効果があると言われていいます。

今回、歯科衛生士の加入で言語聴覚士とともに専門的な口腔ケアや舌や唇を動かしたり声を出すといった「口のリハビリテーション」を行うとともに、毎日の口腔ケアについてスタッフの指導や勉強会、利用者様へのアドバイスをさせていただき、お食事や会話を楽しんでいただけるよう取り組んでいきます。

糖尿病予防教室のお知らせ

新鷺沼ケアクリニックでは、毎月1回『糖尿病予防教室』を開催しています。それぞれ専門のスタッフが分かりやすく&楽しく説明をさせていただいていますので、当院へ通院されている方はもちろん、ご家族の方、最近血糖値が気になる方、糖尿病に関心のある方など・・・どなたでもお気軽にご参加ください。



第1回	糖尿病の食事	平成 22 年 11 月
第2回	糖尿病にならないために	12 月
第3回	辛くない運動	平成 23 年 1 月
第4回	今、話題の新しい糖尿病治療薬	2 月
第5回	糖尿病の検査	3 月
第6回	糖尿病と足の病気	4 月
第7回	糖尿病性腎症について	5 月
第8回	糖尿病と遺伝	6 月
第9回	災害時の備え	7 月

次回は、第 10 回『健康づくりのために』を予定しています。
開催日：9月21日(水) 時間：14:00 ~
会場：外来リハビリ室
詳細は、職員または院内掲示物・HPにてご確認ください。

法人職員活動報告



「老健大会に参加して」

リハビリテーション係
言語聴覚士 渡邊 育美

平成 23 年 5 月 26 日から 27 日に福井県福井市のフェニックスプラザで行われた、第 7 回東海・北陸ブロック老健大会に参加し、発表させていただきました。

「考えよう！老健の今とこれから～生き甲斐、そしてやり甲斐、魅力ある老健を目指して～」というテーマのもと、岐阜を含む 7 県 68 の介護老人保健施設の発表がありました。

今回は、“安全に楽しく食べてもらう”ことを目標に始めた NST（栄養・サポートチーム）の活動の中から、口腔ケアへの取り組みについて発表しました。

特に「胃ろうを使用されている入所者様の口腔ケアを見直すことで、発熱が少なくなったりレクリエーションへ参加できる機会が増えた」という一定の成果を発表することができ、嬉しく思いました。

発表されていた中には、家庭菜園や楽器演奏を通して認知症への取り組みを行っていたり、入所者様一人ひとりに「その人らしく」楽しく過ごしていただくために食事やレクリエーションなど日々の生活の中で工夫をされるなど、各施設とも個性豊かで積極的に取り組まれている様子がうかがえました。

今後も、一人ひとりの方が生き甲斐を持ち、楽しく過ごしていただけるよう様々な取り組みを行っていききたいと思います。



「第 15 回岐阜県作業療法学会に参加して」

リハビリテーション係
作業療法士 坂田 崇好

平成 23 年 5 月 22 日に、岐阜県瑞穂市の瑞穂市総合センターで行なわれた、第 15 回岐阜県作業療法学会に参加し、発表させていただきました。

今回の学会は、テーマを「個の発見といざない」とし、作業療法士個人が自分の能力を発見し、その結果、患者様の潜在能力を引き出していくことがねらいでした。

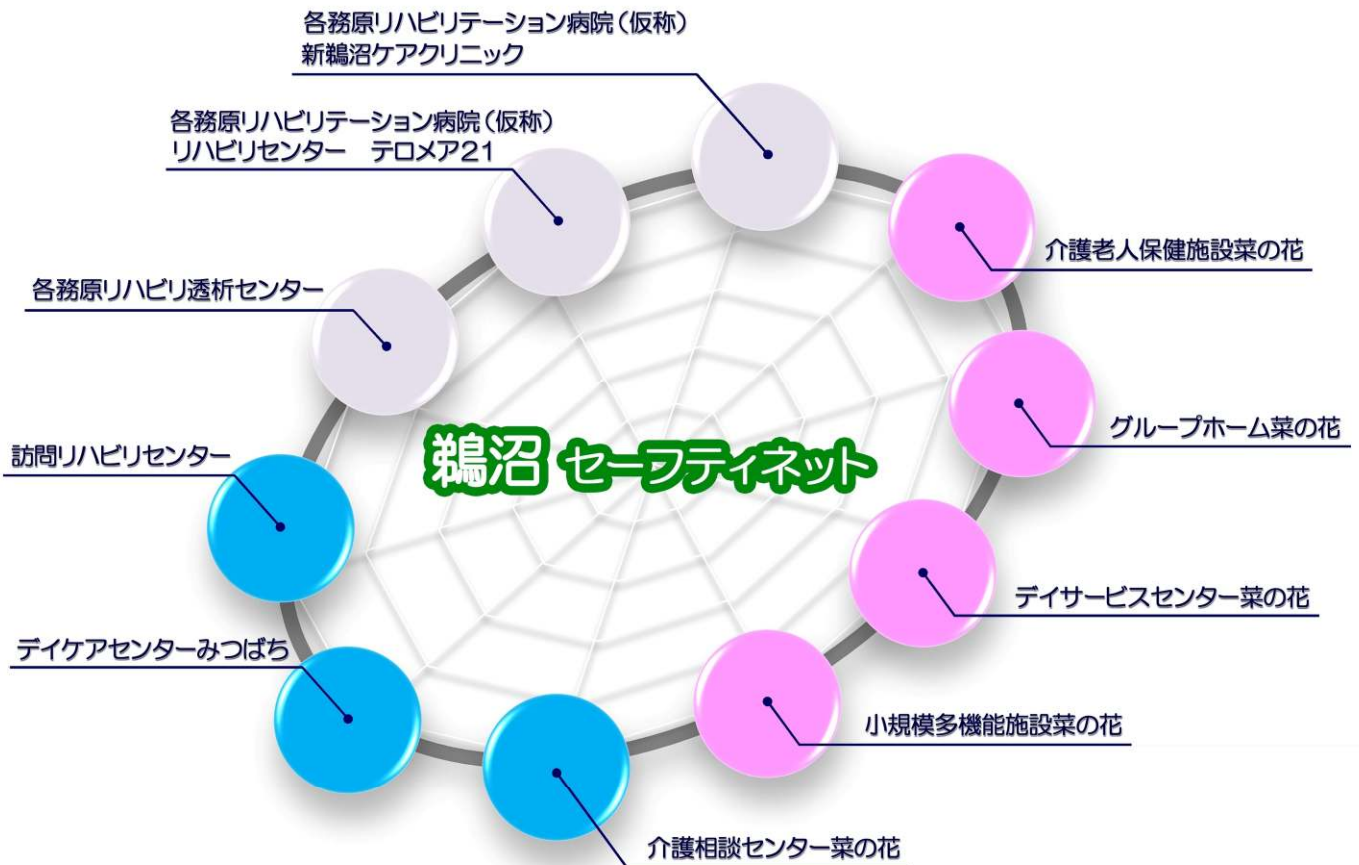
私は、「当院通所リハビリテーション利用者の興味・関心について」を発表しました。高齢者領域の作業療法では、疾患・障害中心だけではなく、生活の質の向上を目指した関わりが重要とされています。そこで、デイケアみつばちの利用者様を対象に、どのような事に興味・関心があるのかをアンケート調査し、それを分析し発表しました。

研究するにあたって、不慣れなところも多く苦労しましたが、新たに自分の可能性を発見することができました。

調査・研究に協力してくださった患者様をはじめ、スタッフの皆様やご指導いただいた先生方のおかげで、会長賞として表彰されることができました。

今回の学会参加・発表で学んだ事や、新たに発見できたことを今後も活かせるよう、自己研鑽に励んでいきたいと思います。

法人施設のご紹介



各務原リハビリテーション病院(仮称) 新鶺沼ケアクリニック

各務原市鶺沼山崎町 6-8-2
TEL 058-384-8485 FAX 058-370-1901

(地域医療介護連携室)

TEL 058-384-8181 FAX 058-384-2102

介護老人保健施設 菜の花

各務原市鶺沼山崎町 6-8-2
TEL 058-384-8399 FAX 058-384-2102

グループホーム 菜の花

各務原市鶺沼東町 6-8-1
TEL 058-379-6205 FAX 058-379-6206

訪問リハビリ

各務原市鶺沼山崎町 6-8-2
TEL 058-384-8399 FAX 058-384-2102

デイケアセンター みつばち

各務原市鶺沼山崎町 6-8-2
TEL 058-384-8399 FAX 058-384-2102

デイサービスセンター 菜の花

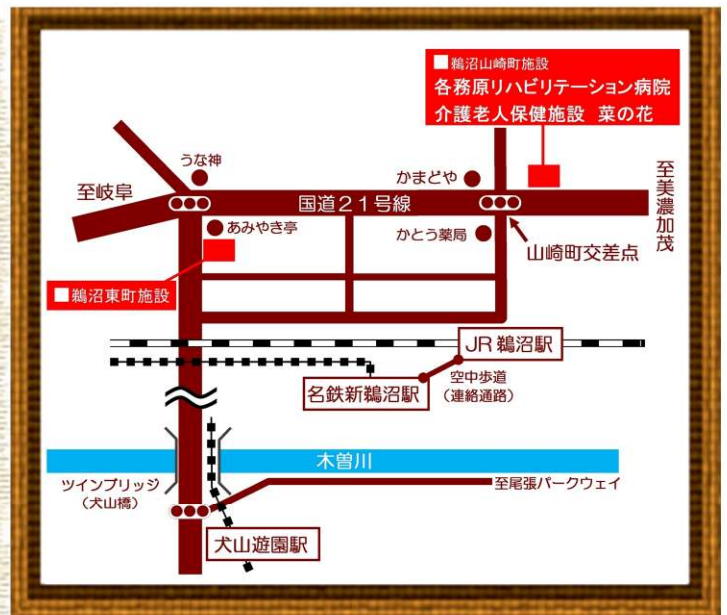
各務原市鶺沼東町 6-10-1
TEL 058-370-7494 FAX 058-370-6936

小規模多機能型居宅介護施設 菜の花

各務原市鶺沼東町 6-10-1
TEL 058-370-7775 FAX 058-370-6936

介護相談センター 菜の花

各務原市鶺沼山崎町 6-8-2
TEL 058-370-6935 FAX 058-384-2102



— 広報委員 —

磯野理事長 (監修)
地域連携課: 谷口 純子 (委員長)
栄養係: 山田 知里 放射線係: 小林 由幸
リハビリテーション係: 豊田 啓 早矢仕 充寿
漆原 宏美 坂田 崇好